

住宅課題賞2025参加大学(学校数:42大学／56学科)

- | | |
|---------------------------------------|------------------------------------|
| 01. 足利大学 工学部 創生工学科 建築・土木分野 建築学コース | 29. 東京家政学院大学 現代生活学部 生活デザイン学科 |
| 02. 茨城大学 工学部 都市システム工学科 建築デザインプログラム | 30. 東京藝術大学 美術学部 建築科 |
| 03. 宇都宮大学 地域デザイン科学部 建築都市デザイン学科 | 31. 東京電機大学 未来科学部 建築学科 |
| 04. 神奈川大学 建築学部 建築学科 住生活創造コース | 32. 東京都市大学 建築都市デザイン学部 建築学科 |
| 05. 関東学院大学 建築・環境学部 建築・環境学科 建築デザインコース | 33. 東京都立大学 都市環境学部 建築学科 |
| 06. 関東学院大学 建築・環境学部 建築・環境学科 すまいデザインコース | 34. 東京理科大学 工学部 建築学科 |
| 07. 共立女子大学 家政学部 建築・デザイン学科 建築コース・建築分野 | 35. 東京理科大学 創域理工学部 建築学科 |
| 08. 慶應義塾大学 環境情報学部 | 36. 東洋大学 福祉社会デザイン学部 人間環境デザイン学科 |
| 09. 慶應義塾大学 理工学部 システムデザイン工学科 | 37. 東洋大学 理工学部 建築学科 |
| 10. 工学院大学 建築学部 建築学科 | 38. 日本大学 芸術学部 デザイン学科 |
| 11. 工学院大学 建築学部 建築デザイン学科 | 39. 日本大学 生産工学部 建築工学科 |
| 12. 工学院大学 建築学部 まちづくり学科 | 40. 日本大学 理工学部 建築学科 |
| 13. 国士舘大学 理工学部 理工学科 建築学系 | 41. 日本大学 理工学部 海洋建築工学科 |
| 14. 駒沢女子大学 人間総合学群 住空間デザイン学類 建築デザインコース | 42. 日本工業大学 建築学部 建築学科 建築コース |
| 15. 相模女子大学 学芸学部 生活デザイン学科 | 43. 日本工業大学 建築学部 建築学科 生活環境デザインコース |
| 16. 静岡理工科大学 理工学部 建築学科 | 44. 日本女子大学 建築デザイン学部 建築デザイン学科 |
| 17. 芝浦工業大学 建築学部 建築学科 APコース | 45. 文化学園大学 造形学部 建築・インテリア学科 |
| 18. 芝浦工業大学 建築学部 建築学科 SAコース | 46. 法政大学 デザイン工学部 建築学科 |
| 19. 芝浦工業大学 建築学部 建築学科 UAコース | 47. 前橋工科大学 建築・都市・環境工学群 建築都市プログラム |
| 20. 芝浦工業大学 システム理工学部 環境システム学科 | 48. 前橋工科大学 建築・都市・環境工学群 工学デザインプログラム |
| 21. 昭和女子大学 環境デザイン学部 環境デザイン学科 | 49. 武蔵野大学 工学部 建築デザイン学科 |
| 建築・インテリアデザインコース | 50. 武蔵野美術大学 造形学部 建築学科 |
| 22. 女子美術大学 芸術学部 デザイン・工芸学科 環境デザイン専攻 | 51. 明海大学 不動産学部 不動産学科 デザインコース |
| 23. 多摩美術大学 美術学部 建築・環境デザイン学科 | 52. 明治大学 理工学部 建築学科 |
| 24. 千葉大学 工学部 総合工学科 都市工学コース | 53. 明星大学 建築学部 建築学科 |
| 25. 千葉工業大学 創造工学部 建築学科 | 54. ものづくり大学 技能工芸学部 建設学科 建築デザインコース |
| 26. 筑波大学 芸術専門学群 建築デザイン領域 | 55. 横浜国立大学 都市科学部 建築学科 |
| 27. 東海大学 建築都市学部 建築学科 | 56. 早稲田大学 創造理工学部 建築学科 |
| 28. 東京大学 工学部 建築学科 | |

Residential Studio Project Award 2025

42大学56学科の代表作品展[建築系大学住宅課題優秀作品展]

第25回

住宅課題賞2025

42大学56学科の代表作品展[建築系大学住宅課題優秀作品展]
—各々の視点の空間を生かして—

〔開催日時〕 2025年10月22日(水)～11月6日(木)10:00～17:30 土曜・日曜・祝日休館

〔会場〕 ギャラリー エー クワッド 〒136-0075 東京都江東区新砂1-1-1 竹中工務店東京本店1F
〈TEL〉03-6660-6011 〈URL〉<https://www.a-quad.jp/>



GALLERY A*

第25回

住宅課題賞2025

—各々の視点の空間を生かして—



ごあいさつ

東京建築士会は、東京都の建築士有資格者団体として、また東京都指定登録機関として建築士の業務の進歩改善と品位の維持向上を図り、近年、環境・省エネルギー・SDGs等への社会的取り組みが求められる中、本会といたしましてもこれらを配慮した取り組みを建築教育へ繋げていきたいと考えています。さらに建築文化の進展に寄与することを目的として、様々な活動を通し、建築情報を提供しながら建築士制度の普及に努めています。

平成13年より企画して参りました「住宅課題賞」入選作品展（建築系大学住宅課題優秀作品展）は、関東圏の建築系大学の住宅設計課題を各大学で学内選抜し、その優秀作品を一堂に集めた作品展です。大学ごとに異なる課題とその取り組みを見ることができます。本年も昨年に引き続き、ギャラリー エー クワッドのご協力により、同会場において実施する運びとなりました。この企画は25回目を迎え、本年の参加大学は42大学56学科となり、関東圏の建築系大学に殆ど参加いただいています。

少子高齢化が進み人口が減少していることや景気の後退で建築の需要が厳しい状況になり、仕事の競争率も高くなるかもしれませんが、衣食住の一つである「住」ですからゼロにはなりません。考え方も工夫次第です。AIの代替えがささやかれ、CADからBIMへと技術面での変化もみられます。効率化されることで、労働環境の改善、スキルアップ、営業など時間も使い方次第です。

この「住宅課題賞」が、将来のある学生の皆様に、その楽しさと社会的な意義を深めていただくと同時に、建築士会会員をはじめ第一線で活躍されている建築士と各大学間における建築教育の情報交換及び交流の場となれば幸いです。

また、この入選作品を公開展示することにより、建築に携わる方々への新鮮な刺激と、より多くの人々に建築への理解を一層深めていただける機会になることを望んでいます。

なお、本展に際し、企画運営にご協力いただきました関係各位に厚く御礼申し上げます。

2025年10月
一般社団法人 東京建築士会

出展規定

【参 加条件】

貴大学で行われている住宅設計課題の優秀作品を1作品推薦。

学部生、1年～3年時の作品（作成時）とする。

課題作品は、令和6年9月（前年後期）以降のものとする。

出題ペーパーと学生の作品（図面及び模型）両方を展示する。

【出展規定】

図面：A1版（縦841mm×横594mm、厚さ5mm）レイアウトは縦使いに統一、1枚とする。

スチレンボードなどに貼られたもので、ぶら下げられる重さのものとし、枠はなしとする。

模型：縮尺は1/50に原則統一、1点とする。

大きさは敷地含め、幅1,100mm×奥行700mmの範囲内とし、1点とする。

但し、縮尺と模型サイズ（敷地含む）が合わない場合は、規定サイズ内に収まる縮尺に調整してから搬入する。

※混雑回避のため搬入・搬出は、密にならないようタイムコントロールを行いますので、速やかに運ぶようご理解の上、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

【 賞 】

各大学から選ばれた段階で、「住宅課題賞」入選とする。

さらに展示作品の中から「住宅課題賞 審査員賞」 数を選出する。

【審 査方法】

審査員出展者および関係者による公開審査とする。

開催方法は、オンライン配信・対面参加の併用開催とする。

【審 査員】

審査員：都留 理子（都留理子建築設計スタジオ）

富永 譲（法政大学名誉教授／フォルムシステム設計研究所）

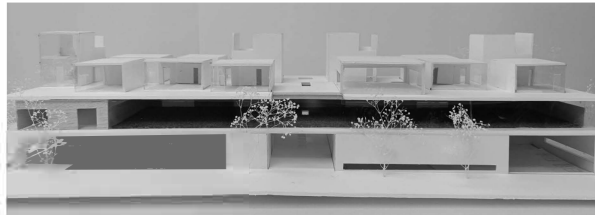
増田 信吾（増田信吾＋大坪克亘建築設計事務所）

御手洗 龍（御手洗龍建築設計事務所）

司会進行：宮 晶子（日本女子大学教授／miya akiko architecture atelier）

〈住宅課題賞 入選作品〉

01 住人や地域住民との交流ができる 移住者のための住宅と店舗

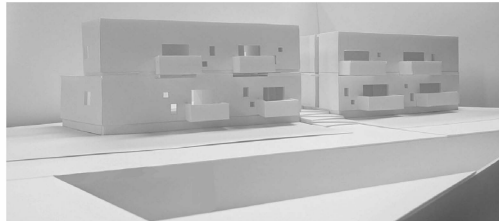


現代社会では、移住者や子育て世代が孤立しやすい状況にある。本計画は、「階層を介したつながり」を軸とし、移住者と地域の交流を育む住居・店舗である。暮らす・働く・育てるを重ね合わせることで、日常の中に交流と支え合いが生まれる拠点を目指す。地域に開かれた場を設け、人と人、人とまちが自然につながる関係性を育むことを意図している。



鈴木 里萌(すずき りほ) 足利大学
工学部 創生工学科 建築・土木分野 建築学コース／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:小島 光晴
指導教員名:渡邊 美樹

03 「集合住宅」

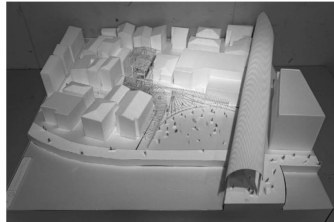


周辺地域に広がる道と街を、集合住宅内に表現した。敷地前方に伸びる、特徴的な釜川プロムナードを敷地・建物内に引き込み、居室へのアプローチまでも路地を延ばしている。居室は街を、ランダムな開口は釜川を模しており、ここに路地を引き込むことで周辺地域を模式的に再現した。周辺地域を模したこの集合住宅に住むことにより、周辺地域へと足が伸びていくことを期待する。



猪原 照子(いの はて るこ) 宇都宮大学
地域デザイン科学部 建築都市デザイン学科／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:中山 大輔、大嶽 陽徳
指導教員名:大嶽 陽徳

05 シェアタウン ～暮らしを拡張する建築～



まちのストラクチャーを再編集しながら、道を住宅の共用廊下として、すまいと高いが混在する新しい集合住宅のあり方を提案する。まちの「デキゴト」から生まれる空間は、単なる機能を超えた関係性や新たなデキゴトを紡ぐ。まちのほころびである5つの敷地に溶け込む、鉄骨の棟木を軸に展開する建築によって、マクロかつミクロなスケールで、まち・暮らしがシェアされる。



左から 佐竹 青嵐(さたけ あおし)、土屋 晴希(つちや はるき)、臨本 帆南(わかもと ほなみ)
関東学院大学 建築・環境学部 建築・環境学科 建築デザインコース／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:柳澤 潤、矢野 泰司、神永 侑子、村山 徹
指導教員名:柳澤 潤、矢野 泰司、神永 侑子、村山 徹

07 5坪の住まいー自然の中の自分の住まい



人の身の回りのスケールや身体感覚を突き詰めていくと、自然と5坪ほどの葉のような空間に行き着くのではないだろうか。私は自然の中で、趣味であるデッサンを自由に行える居場所を計画した。人のスケールを基に、空間を余すことなく使い切ることを意識し設計を進めた。私たちに本当に必要な暮らしとは何か。時間に縛られず、ありのままに過ごせる住まいをここに提案する。



遠藤 晴香(えんどう はるか) 共立女子大学
家政学部 建築・デザイン学科 建築コース・建築分野／4年
課題出題時学年:3年
出題教員名:萩生田 秀之、上西 明、奥村 理絵、古賀 大、勢山 詔子
指導教員名:萩生田 秀之、上西 明、奥村 理絵、古賀 大、勢山 詔子

02 街に開いて、住む

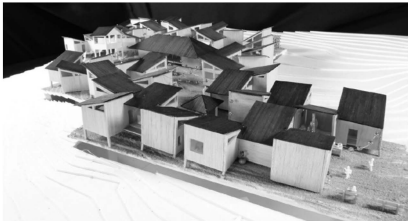


街に開かれた集合住宅として、生活と交流が重なり合う建築を目指した。1階にギャラリーと休憩スペースを設け、地域住民や学生が気軽に立ち寄れる都市交流の拠点とする。2階には、外部に開かれたテラスを配置し、上階ではテラス、中庭、屋上をつなぐことで風と光が通り抜け、自然と人の動きが生まれる回遊性を創出する。住む、集うが柔らかく重なり合う新しい住環境を提案する。



時田 萌々子(ときた ももこ) 茨城大学
工学部 都市システム工学科 建築デザインプログラム／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:遠藤 克彦、稲用 隆一
指導教員名:遠藤 克彦、稲用 隆一

04 地域社会圏主義 六角橋モデルー小さな経済圏と暮らしの場ー



六角橋の斜面地に、地域社会を基盤とした集合住宅を計画する。中央には子ども食堂と広場を配置し、遊び場やイベントなど多様な活動の拠点とする。基本単位となる3600角のユニットをずらして配置することで、中庭や地域に開かれた空間を創出する。また、駄菓子屋やピアノ室など住民の趣味を活かした共用空間を設け、世代を超えた交流と子どもの成長を支える温かな住環境を目指す。



左から 大橋 志月(おおはし しづき)、甲斐 陽向(かい ひなた)、切明 柚華(きりあけ ゆずは)
神奈川大学 建築学部 建築学科 住生活創造コース／4年
課題出題時学年:3年
出題教員名:立花 美緒、山本 基揮
指導教員名:立花 美緒、山本 基揮、菊井 悠矢

06 環境に働きかける家



環境が窓から働きかけることで、家のスラブを削りスラブは塔の中を巡る。そのスラブはキッチンにもなり、リスにもなり、その中で私はより敏感に外の環境に反応することができる。住宅の周りの木々から感じる匂い、音、木漏れ日、風の強さを感じ取り、私は想って行動する。この一連の流れを環境に働きかける家とし、時間とともに移り変わる。

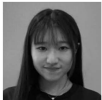


江田 琴美(えだ ことみ) 関東学院大学
建築・環境学部 建築・環境学科 すまいデザインコース／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:粕谷 淳司、小形 徹、三浦 秀彦
指導教員名:粕谷 淳司、小形 徹、三浦 秀彦

08 地形に住む家

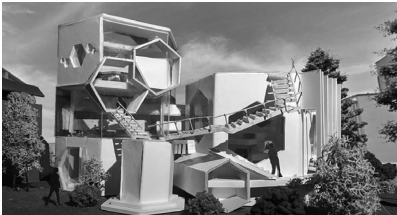


地形とはなんだろう。地形図に現れる地面はもちろん、擁壁、住宅の壁や屋根、庇も地形ではないだろうか。また、植物や生活感の溢れ出しは家と街との境界を曖昧にし、一体となる。これまで建築として扱われてこなかった擁壁と共に、植動板という地形に住むことのできる住宅を設計した。家に住むようて街に、そして地形に住むことができるような新たな住宅の在り方を提案する。



金子 華理(かねこ はなり) 慶應義塾大学
環境情報学部／2年
課題出題時学年:2年
出題教員名:中川 エリカ
指導教員名:中川 エリカ

09 戸建て住宅の設計



現代の住宅は壁によって内外を強く分断し、自然を遮断している。そこで正六角形をずらし、貫入させることにより、余白に強度を生み出す。境界が曖昧になり、建物は内部と外部を連続させ、周囲の自然を取り込みながら、人と環境が調和する住まいを実現する。また、その余白は流動と滞在空間の場を形成し、人々の動きと交流を促す場となる。



川田 愛乃(かわた あいの) 慶應義塾大学
理工学部 システムデザイン工学科／3年
課題出題時学年:2年 出題教員名:岸本 達也、佐野 哲史、井上 岳、岩澤 拓海、小川 愛実、松沢 一広 指導教員名:岸本 達也、佐野 哲史、井上 岳、岩澤 拓海、小川 愛実、松沢 一広

11 都市居住(都心部における長期／短期の住まいの提案)

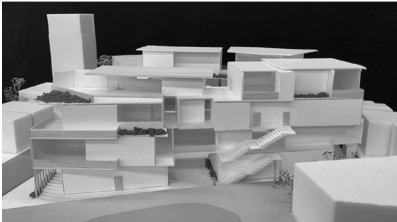


百人町二丁目に散見される「溢れ出し」。その背後には住民たちの意図が隠れているだろう。「溢れ出し」をもととした「切り欠き」と「余白」の手法を使いながら、新たな溢れ出しの場・意図のあらわれる場を生み出す。また合わせて、周辺を呼応するようにボリューム操作・路地の挿入をする。この集合住宅はまちにおけるあらたな価値を生む。



酒寄 辰彦(さかより たつひこ) 工学院大学
建築学部 建築デザイン学科／4年
課題出題時学年:3年 出題教員名:西森 陸雄 指導教員名:伊藤 博之、富永 祥子、戸村 英子、西森 陸雄、藤木 隆明、星 卓志、Michael Kearney、内海 彰、後藤 武、戸室 太一、横山 太郎

13 世田谷代田駅前広場の公衆トイレと小商いをもち都市型集合住宅の設計



世田谷代田から商店街がなくなり、人々の交流場所や賑わいがなくなりました。そこで、この敷地全体を賑わう街にし、昔の活気を取り戻す。小商いを持つ住人とお客さんがご近所付き合いのような穏やかな空間を作り、新たな交流場所を提供する。そして、高級住宅街であることを考慮し、中庭を中心として考え、所々にある通り抜けから緩やかに外部との関係を保ち、豊かな空間を作り出す。



橋本 唯来(はしもと ゆいな) 国士館大学
理工学部 理工学科 建築学系／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:大井 鉄也
指導教員名:大井 鉄也

15 集合住宅:都心に住む



日本の伝統的な住居は部屋として壁で区切られておらず、引戸やふすまで住人が定義する。集合住宅全体が引戸で構成されたこの日本らしい曖昧な境界線を持つ集合住宅は、低層階が広いテラスと狭い室内、高層階が狭いテラスと広い室内を持つ。住人以外も訪れることができるパブリックな空間と、プライベートな空間の境界線を住人が決める集合住宅である。



石井 はずき(いしい はずき) 相模女子大学
学芸学部 生活デザイン学科／4年
課題出題時学年:3年 出題教員名:柴田 淳
指導教員名:柴田 淳

10 工学院大学八王子国際留学生寮



工学院大学には毎年多くの留学生が集うが、その交流は一部に限られている。本提案は、留学生と地域住民、そして工学院生が一体となり市場を運営する国際留学生寮の計画である。大学と住宅地の間に位置する敷地の特性を活かし、外へと開かれた配置としながら、軒下空間で連続的につながる場を設けることで、多様な人々が集い、豊かな交流の拠点となることを意図している。



神名 美咲(かんな みさき) 工学院大学
建築学部 建築学科／3年
課題出題時学年:2年 出題教員名:櫻原 徹 指導教員名:櫻原 徹、篠沢 健太、初田 香成、今永 和利、岩堀 未来、熊木 英雄、佐野 勇太、瀬川 幸太、長塚 幸助、日高 恵理香、山本 想太郎、吉田 明弘

12 外のある家



住まいにおける「余白」を軸に、内と外、個と社会、自然と建築の境界を曖昧にした住宅。格子状フレームの中に直方体空間をランダムに配置し、余白に“外”を介在させることで、光や風、季節の移ろいを感じられる多様な居場所を生む。大開口やルーバー、軒下空間により屋内外の境界を柔らかくし、地域と緩やかに繋がる開かれた住まいを目指す。日常に自然や人の気配が滲み込む住宅である。



篠崎 愛(しのざき まな) 工学院大学
建築学部 まちづくり学科／2年
課題出題時学年:2年 出題教員名:富永 祥子
指導教員名:富永 祥子、大塚 篤、上西 明、川嶋 貫介、佐野 勇太、塚越 智之、土屋 辰之助、都留 理子、仲嶋 清道、西田 聡、原田 将史、林 孝行、加藤 漢一

14 新しいシモキタに住むとしたら

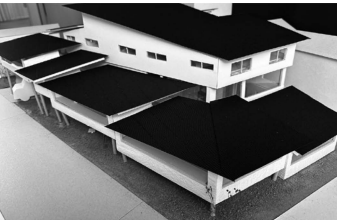


下北沢の文化を背景に、趣味を介した交流を軸とする集合住宅を計画する。住まいを個人の領域に留めず地域と重ね合わせ、新しい暮らしの関係性を築く。共用空間を通して住民同士が自然に出会い、街とも緩やかにつながることで、文化を共有し育む生活拠点をを目指す。



米本 爽乃(よねもと さやの) 駒沢女子大学
人間総合学群 住空間デザイン学類 建築デザインコース／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:田中 昭成、三木 達郎、茂木 弥生子
指導教員名:田中 昭成、三木 達郎、茂木 弥生子

16 幼・老・〇の舎(いえ)



本計画は、掛川の風景と創作活動の交わりを生む住空間の提案である。庭、建物、通路、アトリエが一体となり訪れる人々が互いの活動や作品に触れ合う構成であり、通路沿いの壁展示は地域住民や観光客に新たな視点を生む。またLDKを店舗と一体型に使うことで住宅と公共スペースが交差する場を形成する。こうして人と人・風景が重なり合い、掛川の魅力を編み込む創造的な場を目指す。



竹内 悠葉(たけうち はるな) 静岡理科大学
理工学部 建築学科／3年
課題出題時学年:2年 出題教員名:田井 幹夫、長尾 亜子、渡辺 隆、佐々木 司
指導教員名:田井 幹夫、長尾 亜子、渡辺 隆、佐々木 司

17 まちに開いたシェアハウス



地域住民や観光客など多様な人が訪れ、路地や商店街には様々なものがあふれだす谷中のまちにシェアハウスを設計する。各個人の部屋のスラブを拡張することによってあふれだしの余地を残し、それらのレベルをずらして形を構成する。あふれだした人々の生活の気配が重なり合うことで起こる様々なできごとがシェアして暮らす意味をもたらす。



塚本 偲央(つかもと しお) 芝浦工業大学
建築学部 建築学科 APコース／2年
課題出題時学年:2年
出題教員名:猪熊 純
指導教員名:谷口 大造

19 本好き三世代家族の郊外住宅



読書を共通の趣味から家族を繋ぐツールへと昇華させ、南側の樹林を望む環境を活かした。中央に階段一体型の本棚を設け、上下を立体的に繋ぐことで、程よい距離感を保ちながら自然に交流できる空間を実現する。また屋根上階段や露台を設け、屋外にも居場所を広げることで家族全員が共に、あるいは一人でも楽しめる時間を生み出す。環境と調和しつつ、その家族らしさを育む住宅を目指した。



野澤 春輝(のざわ はるき) 芝浦工業大学
建築学部 建築学科 UAコース／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:前田 英寿
指導教員名:日笠 直彦

21 高円寺に集まって暮らす



街路と公園、小ホールと住まいがやわらかく連続し、サウンド・コリドーが1階のピアノの響きを建物全体へと巡らせる。隣接する公園の木々を形象化した樹形の構造が都市に立ち上る一本の大樹となり、昼は陰影、夜は灯りと音の気配で「音楽の灯台」として高円寺の風景を導く。誰もが立ち止まり、耳を澄ます瞬間が日常に芽吹く、開かれた集合住宅型音楽拠点。



石橋 幸奈(いしばし ゆきな) 昭和女子大学
環境デザイン学部 環境デザイン学科 建築・インテリアデザインコース／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:雨宮 知彦、杉浦 久子、平井 未央、棚橋 玄
指導教員名:杉浦 久子

23 ≪風景の中の住空間≫～谷戸の家(二地域居住地谷戸編)～



本を読む空間の中で最も重要なのが光であり、その光には柔らかさが必要であると考えた。本設計では柔らかさを持つ光で地上空間と地下空間を照らす計画をした。地上空間の天井には膜を張り、膜を通った光は曲面で反射し、柔らかな光となり空間内を包む。そんな柔らかな光が地下空間にもとどき、光の階調を作りながら空間を静かに照らす。2つの柔らかな光が地上と地下を繋ぐ。



吉田 遼輔(よしだ あいすけ) 多摩美術大学
美術学部 建築・環境デザイン学科／2年
課題出題時学年:1年 出題教員名:松澤 稜、湯浅 良介、田嶋 豊、犬飼 基史、大竹 海、梯 誠、戸村 英子 指導教員名:松澤 稜、湯浅 良介、田嶋 豊、犬飼 基史、大竹 海、梯 誠、戸村 英子

18 地域と交換する集合住宅 ～もらい・あたえる恒常的地域をつくる～



敷地は低層住宅がひしめき合う漁師町の運河沿いにある。水辺との一体感を尊重し、高さを抑えて建物を構えた。密集地での空き地の心地よさを空間によって取り込み、暮らしに余白を与える。この余白は、生活からあふれる喜びを受け止め、町へにじみ出す場となる。諸条件を満たしつつ、光や風を通し、住戸同士の関係が自然と在る、ほどよく開かれた住空間を思い描いた。



中林 由佳(なかばやし ゆか) 芝浦工業大学
建築学部 建築学科 SAコース／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:小菅 瑠香
指導教員名:谷口 大造

20 「住む人の個性があふれ出てしまう家」-「あなた」は、まだ「本当のあなた」を知らない。-



本提案は、仲の悪い家族が互いに気を遣いすぎず、心地よい距離感の中で暮らせる住まいを目指した。「近すぎず、遠すぎず」、それぞれが自分の時間を過ごしながらもふとした瞬間に自然とつながれる空間をつかった。リビングや緩やかに配置された居場所は、家族を隔てるのではなく、程よくつなぐ「間」として機能する。やがて再び家族の関係性を取り戻していくきっかけとなる。



阪野 真由(さかの まゆ) 芝浦工業大学
システム理工学部 環境システム学科／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:山崎 一也、柴田 作
指導教員名:山崎 一也、柴田 作

22 住宅計画「住まいを考える」

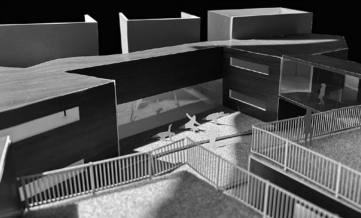


小人の国のようにスケールの異なる住宅エリア。大きな玄関は単なる出入り口ではなく、住民や訪れた人々のためのパブリックスペースとなる。巨大な扉の下には座るスペースがあり、読書や近所の人との会話を楽しむ憩いの場となるほか、子供たちにとって自由に遊び、冒険心を刺激される空間でもある。「大きな扉の小さな国」というコンセプトのもと、非日常的で温かな交流の場を生み、日常に小さな驚きと喜びをもたらす。



韓 昉熹(かん いんき) 女子美術大学
芸術学部 デザイン・工芸学科 環境デザイン専攻／4年
課題出題時学年:3年
出題教員名:高原 真央、松本 加恵
指導教員名:高原 真央、松本 加恵

24 フラクタルな住宅

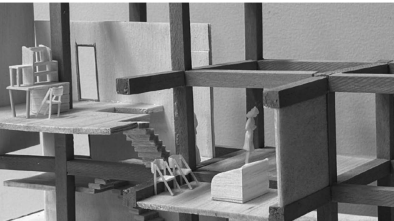


神宮前で見つけた「路地空間」それは日本独特の空間であり、不思議なノスタルジーと温かみを感じる空間である。都市開発が進む東京のまちで「残された空間」であり、まちに住まう人々の愛着と生活によって育てられた空間とも言えるかもしれない。開きすぎず、閉じすぎない、そんな路地ならではの距離感で生まれる人々の関係性をゲストハウス・レストラン・住宅で表現する。



田代 華子(たしろ はなこ) 千葉大学
工学部 総合工学科 都市工学コース／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:志賀 和仁
指導教員名:志賀 和仁

25 集合住宅—コミュニティに開かれた近隣交流型住まいの提案

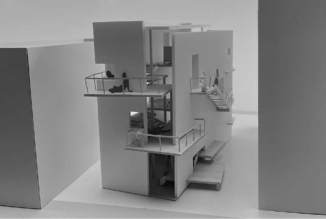


少子高齢化により、団地の住民も高齢化する中で、コミュニケーションや交流が不足し、老人らの孤独死の問題にもなっている。本課題では、むしろ、暮らしが外ににじみ出し、まちの暮らしと公園と多様な施設がオープンにそれぞれ繋がりながら、人だまりや立ち話、あるいは交流が促進されるような、近隣交流型の住まいを提案する。



中田 千愛(なかた ちなり) 千葉工業大学
創造工学部 建築学科／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:田島 則行 指導教員名:金子 尚志、田島 則行、多田 脩二、佐野 もも、若林 拓也、吉田 裕一、山下 貴成

27 都市のせつめんに建つ家



敷地に対して角度をつけて配置した建物からスラブをはみだすことで、2つの軸線のみによる構成であるが豊かな空間が生まれる。建物自体の面を強くすることで、境界性を与えつつ、外部との繋がりを作り出す。「はみだす」操作により、建物での暮らしが内部だけで完結せず、外部へとにじみだす。家族間だけでなく、まちや周辺住民と自然に関わり合うことができる。



浅井 日那(あさい ひな) 東海大学
建築都市学部 建築学科／3年
課題出題時学年:2年 出題教員名:佐野 もも
指導教員名:河内 一泰、岩崎 克也、渡邊 研司、梶浦 暁、横溝 惇、尾沢 俊一、佐野 もも、中坪 多恵子、須部 恭浩

29 シェアハウス／〇〇が集まって住む家



〇〇は各自で設定する。デザイナー、芸術家、起業家、建築学生、ゲーマー、サーファーなど、具体的に住む人達を決めて、原宿にて共同生活するシェアハウスを設計する。リビング、キッチン、浴室、トイレ、洗濯室、アトリ、作業所、図書室、製図室などの共有スペースと各居住者の個室で構成する。新しい共同生活のライフスタイル、空間デザインを考えるのがテーマ。



遊作 真由(ゆうさく まゆ) 東京家政学院大学
現代生活学部 生活デザイン学科／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:原口 秀昭
指導教員名:柿本 美樹枝

31 集合住宅の設計

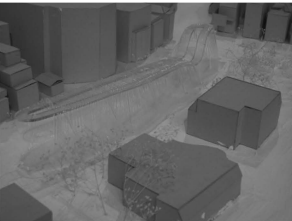


住まい手が木を育てることをコンセプトとし、居住プロセスで形成される「住みこなし」に着目した集合住宅。住戸更新や世代交代といったライフサイクルの中で、前居住者の暮らしの「履歴」を継承し、時間軸に沿って空間が成長・蓄積していく住環境を提案する。



柿沼 瑞幸(かきぬま みずき) 東京電機大学
未来科学部 建築学科／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:山田 あすか、萩原 雅史
指導教員名:萩原 雅史

26 理想的な集合住宅を設計せよ

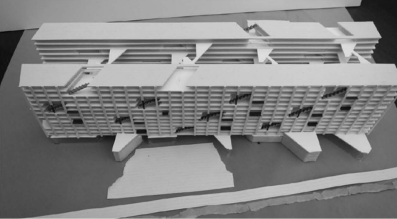


敷地は、代官山にある、二つの歩道に挟まれた中央分離帯のような斜面地。周囲は600戸を超える住宅と日常的な都市活動で形成されており、子どもから大人までが行き交う穏やかな空気感を持つ。この場所に立つ建築を、周囲との境界ににじませる動線として設計した。それは単に通路を提供するだけでなく、動線が集まり、重なり、広がることで“面”を生み出す構造体である。



山賀 樹生(やまが いつき) 筑波大学
芸術専門学群 建築デザイン領域／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:花里 俊廣
指導教員名:花里 俊廣

28 UR大島四丁目団地部分更新計画



6、70年代に江東区に建てられた団地の改修計画。この住民の多くは、いわゆる有名建築家が設計した住宅の対象となる層には含まれないだろう。彼らを排除することなく、さらには居住空間に対する積極的意欲を促進する改修案を目指した。戦後、団地が提示した家族像はもはや崩れつつある。暗い中庭の開放と大小の住戸によって、ここを多様で流動的な共同体を許容する団地へと変える。



首藤 綾乃(しゅとう あやの) 東京大学
工学部 建築学科／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:大月 敏雄 指導教員名:大月 敏雄、松田 雄二、佐藤 淳、李 ヨンゴン、加藤 大作、高濱 史子、手塚 由比、御手洗 龍

30 兼ねる家



住宅地と畑の境界に建つ、飲食店を兼ねた住宅を構想する。足が生えた家は地に浮かび、その足元に人や風、生き物の往来する余白を残す。足元は出会いと交流の場となる。家と周囲の風景は一体となったり、重なり合ったり、離れたりしながら存在する。住人は生活のリズムの中でその層をめぐり、循環するように暮らす。



蘭部 なづな(のべな なづな) 東京藝術大学
美術学部 建築科／2年
課題出題時学年:2年
出題教員名:安部 良、佐藤 敬、堀越 優希、三文字 昌也
指導教員名:安部 良、佐藤 敬、堀越 優希、三文字 昌也

32 ヴィンテージとは



無秩序に広がっていき建物は都市を覆い、風景を単一化させてしまおうのではないか。等々力深谷と都市の中間領域にある敷地に、両者をつなぐ躯体を設け、その周りに住宅、ギャラリー、カフェを併設する。躯体を住宅が覆っていくことにより、都市の循環系の中に住宅が侵食していくような建築を提案し、都市と深谷が相互し続けることを期待する。



島村 颯花(しまむら そうか) 東京都市大学
建築都市デザイン学部 建築学科／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:手塚 貴晴
指導教員名:根村 拓

33 名作から考える

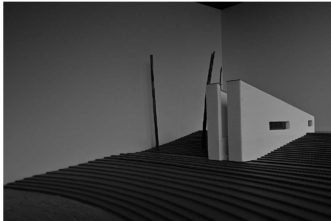


住宅には家族が共に過ごす時間を与えるだけでなく、日々の暮らしの中で新しい発見や豊かさを生み出す空間であってほしい。本提案は「中心のある家」の空間構成を引用している。中心空間を軸に各部屋や動線が回遊的に連続し、人との関わりを自然に促すことで、変化に富んだ生き生きとした暮らしが生まれる住宅を提案する。



辻川 結依子(つじかわ ゆいこ) 東京都立大学
都市環境学部 建築学科／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名: 秋山 怜史、三井 嶺、小泉 雅生、伊藤 喜彦
指導教員名:三井 嶺

35 建築家住宅の離れ

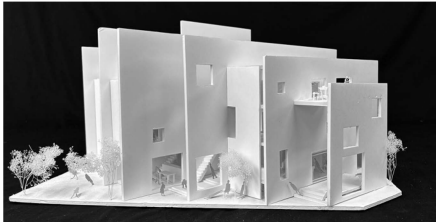


フィンランドの冬は日中3時間しか日が当たらない憂鬱な日々が続き、夏は一日中日が沈まない白夜となる。厳しい冬を越えた先にある夏の光や自然を友人とともに楽しむ場所としてコエタロは設計されている。みんなで集まるコエタロに対し、湖を挟んで約500m離れたところに一人で自然を楽しむことのできる離れを設計した。離れにはポートで行き、中庭を通してコエタロを望む構成とした。



尾崎 満紀(おざき みつぎ) 東京理科大学
創域理工学部 建築学科／2年
課題出題時学年:2年 出題教員名: 森 清敏、中畑 昌之、牧 祐子、木村 友美、南 俊允、五十嵐 理人、三栗野 鈴菜
指導教員名:牧 祐子

37 人と人、人と街の仲立ちとなる集合住宅



かべを複層させ生まれた空間に開口、空中動線、路地の3つのしかけを用いることで境界として機能していたかべをつながるきっかけのかべと変化させる。住民だけでなく地域住民をも巻き込んだつながり体験を形成し境界としてのかべを越えた、つながる集合住宅を提案する。

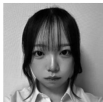


白井 一葉(うすい ひとは) 東洋大学
理工学部 建築学科／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:篠崎 正彦
指導教員名:山本 想太郎

39 これからの社会において「集まって住む」ことの意義を考える



人生の節目ごとに気軽に住まいを変えることが出来る今の時代において、「居続けたい」と思える住宅が真の自由な住まいだと考えた。ライフステージや暮らしの変化に合わせて空間を柔軟に更新することで他人と共に年を重ねる。暮らしを見守り合う温かな関係性が芽生え、誰かと繋がりが続くやさやかな安心が生まれる。そんな安心やぬくもりのある「終の住処」を提案する。



小林 真依(こばやし まい) 日本大学
生産工学部 建築工学科／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名: 渡邊 康
指導教員名: 前田 啓介、関野 一真

34 根津に住む

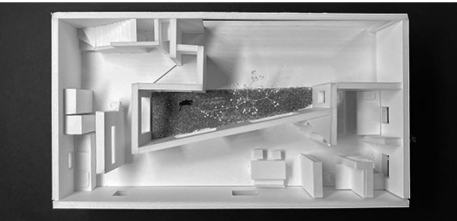


住宅は、部屋という小さな箱の組み合わせでできている。今回は綺麗に箱を並べるのではなく、公共私というそれぞれの箱の街とのキョリの違いを階調ととらえ、グラデーショナルにつなげた。あえて箱同士に重なりを作ることで階調を表現し、できるずれや隙間は小道やバルコニーなどに活用した。階調する7つの箱を通して街とつながる建築を目指した。



高瀬 活希(たかせ かつき) 東京理科大学
工学部 建築学科／2年
課題出題時学年:2年
出題教員名: 池田 雪絵、石橋 敦之、伊藤 孝仁、小林 佐絵子、金沢 将、熊谷 良平 指導教員名: 伊藤 孝仁

36 「4人家族の家」から「終の住処に向けて」へ

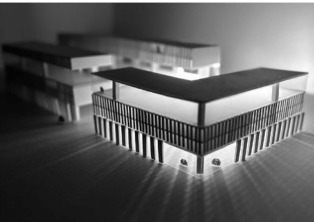


一階と二階の居室をずらして重ね、庭を囲うように配置することで、上下階に視線と気配につながる空間を構成し、同時に十分な採光も確保した。改修家は、夫婦二人が快適に暮らし続けられるよう、スムーズな生活動線を計画。既存の開放的な入口を活かし、地域にひらかれた図書スペースとして再活用。思い出と地域とのつながりを感じられる、穏やかでほっと息つけるような空間を目指した。



宮嶋 日菜(みやじま ひな) 東洋大学
福祉社会デザイン学部 人間環境デザイン学科／2年
課題出題時学年:2年 出題教員名: 名取 発、柏樹 良、水村 容子
指導教員名: 名取 発、柏樹 良、水村 容子、荻原 雅史、佐々木 龍郎、齋藤 由和、井上 見良、窪川 勝哉、高橋 直子

38 都市型集合住宅



代官山の歴史や文化を背景に、ひとり暮らしからファミリーまで多様な人々がつながる「暮らしの輪」を提案しました。各棟の共用空間や1階のカフェ・ショップ・書店を通じ、暮らしと仕事の中間地点となる憩いの場を創出。昼は自然光、夜は住まいの灯りが街を照らし、人と人、人と街を結びます。



今野 沙彩(こんの さや) 日本大学
芸術学部 デザイン学科／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名: 小川 晋一
指導教員名: 小川 晋一

40 谷中の住宅



谷中に落語一家の寄席のある暮らしを設計する。谷中から浅草にかけて落語は町の可笑しい日常をお囃に変えられた。谷中の家の中の暮らしが溢れ出す豊かな姿を落語家は囃にしたのだろう。落語家は巧みな間のリズムで人々を魅了する。本住宅では部屋とリビング、そして谷中との関係性「間」を新しい配置計画に、谷中の人々や落語の要素が入り込むことで谷中の落語囃のような暮らしを設計した。



清 悠空(せい ゆうく) 日本大学
理工学部 建築学科／2年
課題出題時学年:2年
出題教員名: 佐藤 慎也
指導教員名: 佐谷 覚

41 地域とつながる都市型集合住宅



音楽・美術・建築・服飾の4つの創造的分野を学ぶ学生を対象とした集合住宅。無機質化した現代の建築から自然の豊かさを取り戻し、人々の温かみや個性の感じられる「居場所」を、バイオフィリックデザインを通して築く。植物が与える「創造性の向上」に焦点を当て、人間の本能の部分から創造性を高めると共に、人々の交流を通して80人の学生が互いに影響を及ぼし合える空間を提案する。



木村 舞優(きむら まゆ) 日本大学
理工学部 海洋建築工学科／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名: 船曳 桜子、筒井 紀博
指導教員名: 筒井 紀博

43 シェアハウスの設計



このシェアハウスでは、入れ子構造を内にこもる構成として捉えるのではなく、層をもちながら外に連続してひらいていく空間という捉え方をした。固定的な個室を設けず、カーテンによってその日の気分や関係性に合わせて個人と共有の暮らし方を調整できる。空間の柔軟性や余白を大切に、人と人のあいだの関係、内外との境界がやわらかく重なり合うような住まいを目指した。



平田 美怜(ひらた みさと) 日本工業大学
建築学部 建築学科 生活環境デザインコース／2年
課題出題時学年:2年
出題教員名: 足立 真、鈴木 陽子
指導教員名: 足立 真、鈴木 陽子

45 都市部に建つ戸建住宅



現代の二世帯住宅は在宅ワークや生活の分離により、互いの気配が感じにくいという課題を抱えている。本課題では100年前に作られた明治神宮の森に着目した。都市の中にありながら、感覚を開く「余白」として存在する森。この「余白」を住宅に取り入れることで、親世帯と子世帯が無理なく、感覚的に繋がる暮らしを提案する。

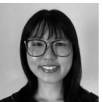


松本 航希(まつもと こうき) 文化学園大学
造形学部 建築・インテリア学科／2年
課題出題時学年:2年
出題教員名: 谷口 久美子、久木 章江、渡邊 裕子、奥村 誠一、種田 元晴、趙 晟恩 指導教員名: 趙 晟恩

47 現代のCARAVANSERIAI



これまでの制度化された集合住宅から新しい集合住宅の形を目指すために、門型フレームを利用した建物を提案する。フレームを重ねて配置し居住・活動スペースにスラブを入れる。フレームが組み合わさることのできた多様な空間や、入り混じる住居と商場によって人々は自由に過ごしながらも自然と関わり合う。またフレームによって、全方向から人々を受け入れる受容的な建築となった。



津村 麗織(つむら りお) 前橋工科大学
建築・都市・環境工学群 建築都市プログラム／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名: 若松 均、駒田 剛司、高塚 章夫、平林 政道
指導教員名: 若松 均、駒田 剛司、高塚 章夫、平林 政道

42 地域とつながるシェアハウス

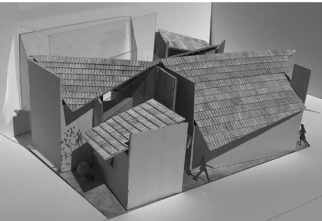


まちに開かれたシェアハウスの提案である。大小5つの逆四角錐のボリュームを分棟配置し、その隙間から生まれる空間を通してまちへひらく。隙間の先に見えるコンキッテンやデッキは、住民とまちの人々が自然に交わり、日常に交流を取り込む。各棟は下層にパブリック機能、上層にプライベートな居住空間を配し、緩やかにつながる。個と全体を往還する構成が、まちとの新しい関係を育む。



鈴木 真紀(すずき まき) 日本工業大学
建築学部 建築学科 建築コース／2年
課題出題時学年:2年
出題教員名: 佐々木 誠、石井 大五、佐野 雄介
指導教員名: 佐々木 誠、石井 大五、佐野 雄介

44 都市の棲家



維司が谷の地に今なお残る特有の町並みやコミュニティの要素を組み込んだ住宅を設計した。小道など外部環境ですら住空間とする「まちに棲みつく」というこの地域ならではの暮らし方が建物内部にまで連続するよう、三棟間の路地、壁の引込み、重ね合わせた屋根を設けた。住人同士の繋がりや地域の人との交流が生まれ、一人で住む高齢者の心の拠り所となる「棲家」になることを期待する。



千葉 涼花(ちば すずか) 日本女子大学
建築デザイン学部 建築デザイン学科／2年
課題出題時学年:2年
出題教員名: 宮 晶子、江尻 憲孝、是澤 紀子、細井 昭憲、資神 尚史、針谷 将史、武田 清明、佐野 もも 指導教員名: 佐野 もも

46 “Breathless” International Domitory -街中の国際学生寮-



日々を送るうえで行われている無数の行為。暮らしうえで必要な家具・モノ。普段気に留めないかもしれない暮らしの断片に焦点を当てた国際寮。



三好 侑良(みよし ゆら) 法政大学
デザイン工学部 建築学科／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名: 下吹越 武人、山道 拓人、御手洗 龍、アリソン 理恵
指導教員名: 下吹越 武人、山道 拓人

48 アパートメントホテル



子供や高齢者、地域の方々が、音楽を通して交流し合えるようなアパートメントホテルを考えた。このアパートメントホテルは、住民一人一人が音楽と共にある暮らしを実現するための音環境共生型住宅である。中核に配置された音楽ホールは、演奏者と聴衆が距離なく交わる交流の場となり、住まいも音と身近に触れ合える環境となるようにした。



樽林 桃花(くればやし ももか) 前橋工科大学
建築・都市・環境工学群 工学デザインプログラム／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名: 石黒 由紀、塚越 智之、北澤 伸浩
指導教員名: 石黒 由紀、塚越 智之、北澤 伸浩

49 「楽しんで棲む」ための集合住宅



「人が寄り道し、その先で自然と交流が生まれる」をコンセプトとしています。日常の中でふと足を止める場所や、予定になくとも奥へ進みたくなる小さな寄り道の積み重ねが人と人との出会いや交流を生み出します。広場での遊びや語らい、活動の一片が重なり合い、互いの存在を感じつつも干渉しすぎない「気配」が、安心感や自然な会話のきっかけを生む場となります。



村上 輝星 (むらかみ ひかる) 武蔵野大学
工学部 建築デザイン学科／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:伊藤 泰彦
指導教員名:黒川 智之

51 今日的な共用住宅(シェアハウス)



本計画では、多世代が共に暮らしながらも、互いのスペースと距離感を大切にできる集合住宅を目指した。計画地である浦安市入船は昼間は保育所の子供たちの声で賑やかだが、夕方には落ち着いた住宅地になる。1階には高齢者向け住戸と地域カフェ、個室ブースを設置。2階にはシングルマザーや単身者向け住戸を配置し、4つの建物をデッキで繋ぎ、生活の中で自然な交流を促す設計とした。



榎本 泰成 (えのもと たいせい) 明海大学
不動産学部 不動産学科 デザインコース／4年
課題出題時学年:4年
出題教員名:塚原 光顕
指導教員名:塚原 光顕

53 多世代交流型集合住宅

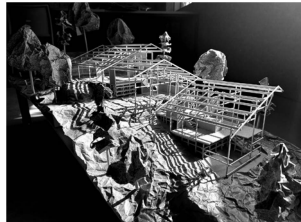


本計画は住民がともに花を育てる庭を中心に、自然と交流が生まれる仕組みを提案する。敷地内に設けられた季節ごとの花壇は、年齢や背景を超えた人々が自然と関わり合う場所となる。収穫した花を使った教室やマルシェも開催され、花を介して人と人がつながり、住む人が育て、育てた場が人を育む。都市の中で忘れられた「手を動かす喜び」と「近隣とのつながり」を再生する集合住宅である。



長谷日 ねお (はせめ ねお) 明星大学
建築学部 建築学科／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:村上 晶子、米田 正彦、川崎 修一
指導教員名:川崎 修一

55 自然のなかの居住単位

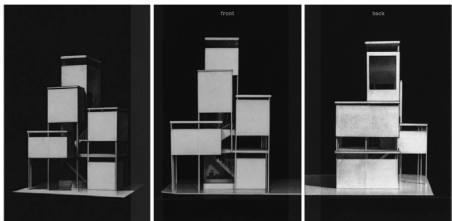


自然を楽しみながら荒れた山を生き返らせる山守の家。敷地の山は、植林や耕作された後放置され、植生が乏しい。山守はこの山において、宮脇昭が実践してきた潜在自然植生の思想に基づいた自伐型林業により、植生の多様化を図る。斜面を流れ落ちるような形状の大屋根は、厳しい気候を緩和しつつ自然光を取り入れ風も通す。屋根の下には、様々な軒高や天井高の空間が生まれ、生業や生活の場となる。



伊藤 空翔 (いとう そらと) 横浜国立大学
都市科学部 建築学科／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:藤原 徹平
指導教員名:藤原 徹平、萬代 基介、西川 日満里

50 敷地設定型 住宅プロジェクト ---住宅+aの新しい可能性を提案する---



住宅密集地に建つこの住宅では、中心に透過性のあるガラスのコアを設け、周囲のボリュームをずらしながら配置することで、光・風・視線が抜ける開放的な住空間を実現した。距離をとりながらも繋がる、新しい都市住宅のあり方を提案する。



宮下 海輝 (みやした みき) 武蔵野美術大学
造形学部 建築学科／4年
課題出題時学年:3年
出題教員名:布施 茂
指導教員名:布施 茂、青木 弘司、三幣 順一

52 集住の現在形 —— 明治大学国際混住学生寮



現代を生きる自由とは、誰とどう関わるかを自ら選べることだ。この学生寮は、町に開かれた建築としてその自由を体現する。建築内の複数の「まちかど」は偶然の出会いや多様な活動を育む場であり、住民は生活ユニットに縛られず、直接町と繋がることで、人々との関係を編み直し、交流のあり方を自由に選択できる。寮全体が住民の選択によって形づくられる町の延長として、息づいていく。



馬場 咲和花 (ばば さわか) 明治大学
理工学部 建築学科／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:山本 俊哉
指導教員名:宮地 国彦

54 更新する学生寮



一人称単数を成り立たせること。それが私にとっての「更新する」ことである。私という存在は、他者や環境との関係性のなかで問い直され、変容する。同時に、過去の経験は断片として内に沈み、揺らめくモノの集合体となって私を支える。そうした断片的なモノを、粘土のように固めたり編み物のように編んだりして自分なりに咀嚼することで、「私」は形づくられていく。



清田 幹翔 (せいだ かんと) ものづくり大学
技能工芸学部 建設学科 建築デザインコース／4年
課題出題時学年:3年
出題教員名:岡田 公彦
指導教員名:岡田 公彦、須田 修二

56 地域のポテンシャルをつなぐ Waseda Activator Hub Activate Waseda



かつて神田川への支流であった敷地は、川へと緩やかに下り、両側をせり上がる傾斜地に囲まれている。大地の起伏に呼応する建築により、歩くという行為の魅力を最大化。参道や歩く人しか通ることのできない細道へとじみ出る空間を、鎮守の森とつながる大屋根が包み、多様な居場所を生み出す。自動車社会の現代に、大地と呼応する建築により、『歩く』のある暮らしと学びを創出する。



深瀬 真歩 (ふかせ まほ) 早稲田大学
創造理工学部 建築学科／3年
課題出題時学年:2年 出題教員名:小林 恵吾 指導教員名:有賀 隆、宮本 佳明、中谷 礼仁、田中 智之、矢口 哲也、小岩 正樹、小林 恵吾、王 薪鵬、小松 萌、池田 理哲、吉田 周一郎、斎藤 信吾

42大学56学科の代表作品展「建築系大学住宅課題優秀作品展」

第25回 住宅課題賞2025

—各々の視点の空間を生かして—

主 企 後 協	催	： 一般社団法人 東京建築士会
	画	： 東京建築士会 事業委員会
		委員長: 富永 祥子 副委員長: 木下 庸子
		委 員: 大竹 由夏 笠井 香澄 城戸崎 和佐 高橋 章夫 中村 見子 濱野 裕司 藤江 和子 藤原 徹平 降旗 千賀子 宮 晶子 吉野 弘 渡邊 大志
		事務局: 鴛海 浩康 梅津 洋佑 鈴木 絢矢乃
	援	： 公益社団法人 日本建築士会連合会 一般社団法人 東京都建築士事務所協会 一般社団法人 日本建築学会 関東支部 公益社団法人 日本建築家協会 関東甲信越支部
		株式会社 新建築社
		株式会社 エクスナレッジ
	賛	： 株式会社 建築資料研究社
		株式会社 アイ工務店
		ArteriaLINK 株式会社
		株式会社 市浦ハウジング&プランニング
		環境・省エネルギー計算センター
		株式会社 建築画報社
		株式会社 長大
		株式会社 ディー・サイン
		日本ベルックス 株式会社
		横浜ビル建材 株式会社
	会 場 構 成	： 濱野 裕司(株式会社 竹中工務店)
	協 力	： 公益財団法人 ギャラリー エー クワッド

[カタログ]
企画・編集・発行: 一般社団法人 東京建築士会
デザイン・制作: 株式会社 ケシオン

一般社団法人 東京建築士会
〒103-0006 東京都中央区日本橋富沢町11番1号 富沢町111ビル5階
[T E L] 03-3527-3100(代) [F A X] 03-3527-3101
[E-mail] event02@tokyokenchikushikai.or.jp
[U R L] https://www.tokyokenchikushikai.or.jp



きづき、きずく。

建築系学生採用アウトソーシング／コンサルティング

ArteriaLINK株式会社 | ArteriaLINK & Co.

〒164-0001
東京都中野区中野4-10-2 中野セントラルパーク2F
TEL:03-5005-0670
URL:https://arterialink.co.jp/



省エネ革命で地球を幸せに
環境・省エネルギー計算センター
Center for Environment and Energy Conservation



運営会社：株式会社 HorizonXX (ホライズン)

本社 | 〒171-0022 東京都豊島区南池袋3丁目15-11 TEL: 03-5944-8575
FAX: 03-5944-8587
省エネ研究開発センター | 〒210-0006 川崎市川崎区砂子1-10-2 TEL: 044-221-5151
FAX: 044-221-5153

面倒で複雑な省エネ計算はすべてお任せください！

省エネ計算	住宅性能評価	CASBEE
BELS / ZEB / ZEH	東京都環境計画	フラット35
長期優良住宅	避難安全検証法	補助金申請サポート

ハウジング分野の専門家集団として
人間居住の向上に貢献する

ICHIURA
HOUSING & PLANNING

株式会社市浦ハウジング&プランニング

本社 113-0033
東京都文京区本郷1丁目28-34
tel.03-5800-0901



建築業界の今がわかる

AF

Architectural Focus

建築画報

https://www.kenchiku-gahou.com

デザインする。

Workspace Design X Business Strategy

ワークプレイスを

経営戦略から、



DE-SIGN

株式会社ディー・サイン
新卒採用サイト



人と夢を技術でつなぐ。



人・夢・技術

株式会社 長大

https://www.chodai.co.jp/



GPU点検口

熱貫
流率 1.44W/m²・K



FCM断熱タイプ

熱貫
流率 1.74W/m²・K

VELUX®

トップライト(天窗)の
グローバルブランド



日本ベルックス株式会社
https://www.velux.co.jp TEL0570-00-8141

**心のこもった仕事
そして 信頼される仕事を！！**

金属製建具及び金属工事他設計・施工

YB 横浜ビル建材株式会社

本社・横浜支店 〒231-0011 神奈川県横浜市中区太田町4-48 川島ビル6F
TEL:045-212-0992(代) FAX:045-212-0994

東京支店 〒105-0004 東京都港区新橋3-4-5 新橋7ロイヤルビルディング3F
TEL:03-3580-2253(代) FAX:03-3580-2295

https://www.biluken.co.jp

家族に愛を、
住まいに
アイを



ハウスメーカー
ランキング

第6位
※

全国
300以上の
展示場

※ 2023年8月住宅産業研究所調べ

**夢がかなう自由設計を
適質価格で**

家族の思いをカタチにする1mm単位の自由設計

理想のマイホームのカタチは十人十色。

だからこそ、自分のこだわりが表現できる住まいづくりが求められていると、
私たちは考えています。

しかも、それを夢がかなうやすい適質価格で。

アイ工務店では、適質価格で皆様の思い描く理想のマイホームを実現でき、
長くつき合える「住まいのベストパートナー」を目指して、日々、研究や
勉強会、仕入れの効率化の努力等を行っています。



家族に愛を、住まいにアイを

アイ工務店

株式会社アイ工務店 (本社)〒530-0001 大阪市北区梅田1丁目13番1号 大阪梅田ツインタワーズ・サウス15階

https://www.ai-koumuten.co.jp/

あなたの夢を Build your Dreams 実現しよう

夢の架け橋
日建学院

多方面から資格取得をサポートする、
日建学院の強み

合格実績

業界最高水準の合格実績
ゆるぎないデータが
裏付ける信頼

映像講義

場所を選ばず日建の高い
レベルの講義が
受けられます

日建学院

個人分析

すべての受講生が
自身の実力を
明確にできます

全国統一講義

転勤先、出張先などでも、
同じ講義の続きが
受講できます

適正価格

合格に必要な
全サポート講義は
追加受講料を無しで提供

名物講師

高い合格率と
高水準の講義を生み出す
名物講師が多数在籍

全国47都道府県114校展開

Step into Your Power!

さあ、あなたの力を
発揮しよう

人材育成・資格取得の
ご相談等は最寄校へ
お気軽にどうぞ!

新宿校

TEL.03-6894-5800

池袋校

TEL.03-3971-1101

上野校

TEL.03-5818-0731

北千住校

TEL.03-6850-0120

新橋校

TEL.03-6858-4650

吉祥寺校

TEL.0422-28-5001

立川校

TEL.042-527-3291